

生の声に学ぶ 木防プロジェクト 最終章

林ベニヤ産業株式会社七尾工場長 ～能登半島地震の被災体験談

近年は豪雨災害や大規模地震など、企業を取り巻く災害リスクが高まっています。こうした中で、防災対策や職場の安全意識を一層強化することが求められています。

今回は能登半島地震で被災された林ベニヤ産業(株)七尾工場長 酒井徹氏に、災害当時の状況や復旧に向けた取り組みについてお話を伺いました。今後の防災対策や業界の支援に役立つ貴重な体験談としてご紹介します。

1. 震災発生直後の対応

・地震直後、社員・スタッフの安否確認や避難はどのように行いましたか？

2024年1月1日16時10分に発生した地震は輪島市と志賀町で最大震度7、工場がある七尾市では震度6強を観測、大津波警報も発令されました。入社していた従業員はおらず、道路が通れるか判らないまま自分が工場に行ったのは2日夕方。4日に管理者を招集し従業員の安否確認を電話で行いました。幸い従業員170名とその家族に人的被害はありませんでした。

・被災当日に最も困ったことは何でしたか？

当日は家族を守るのが精一杯でした。直ぐに市役所に避難しましたが、88才になる父が一人で自宅に戻ってし

まい津波の状況を気にしながら残りの家族と避難を続けました。また、高校生の娘が30km程離れた商業施設で被災。金沢の見知らぬ方に車で送って頂きました。感謝。

・工場や倉庫、木材の安全確保について、どのような対策が有効でしたか？

震度7に有効な対策はないのでは。正月で人がいないのが不幸中の幸いでした。操業中であれば倒壊した製品や仕掛品のそばに人がいたかと思うとゾッとします。建屋が倒壊しなかった事も運です。50年以上経過している建屋もあり揺れの方向が違っていたら倒壊していたかもしれません。

2. 被害状況と復旧の課題

・被災による被害(建物、在庫、設備、インフラ等)で特に深刻だったのは何ですか？

構内の地面は最大30cmの裂け目や多数の不陸が発生。機械設備のレベル調整が大変でした。例えばロータリーレーズは40tもあるのにクレーン車は入れず、小さなジャッキで少し持ち上げては薄い鉄板を差し入れました。自宅が被災しているのに出て来てくれた従業員には感謝しかありません。最も困ったのは生活用水です。飲料水は支援が迅速でしたが水道復旧が遅くトイレや洗濯、風呂に苦労しました。復旧作業で疲れた従業員が風呂にも入れず、週に1回、洗濯物をもって富山や金沢の銭湯に通うことが続きました。

・木材の在庫はどのような被害を受けましたか？乾燥材や原木等に差はありましたか？

製品在庫は1山1.2m、4段積みで殆どが崩れたり倒れかかっていたりしていました。合板の片付け・選別は復旧の最優先事項でしたが、余震がある中で安全第一とし、必ず複数人で緊急地震速報に注意しながら行い大変でした。原木については野積みは崩れていませんでした。

・復旧までに時間がかかった原因・課題は何でしたか？

近隣の事業所の中では特別早く再開出来ました。停電なし。上水は止まりましたが工業用水が使えたことにより早期に再開しました。

3. 業務の継続と対応

・地震後、どのくらいの期間で業務を再開できましたか？

在庫品の出荷は1月5日から開始。1月10日より機械の試運転。15日からは通常の操業にほぼ近い生産を再開しました。

・BCP(事業継続計画)のような事前対策をしていた場合、効果はありましたか？

弊社舞鶴工場との相互応援体制を取っていたため納入遅延は最小限に抑えられました。

・協力企業・組合・自治体との連携で助けられたことはありますか？

被災直後、直ぐに機械メーカー、設備業者、運送業者が対応してくれたことが早期再開に大きく寄与。関係各所からの支援物資(飲料水、レトルト食品、ブルーシート等)も次々と届き、工場での昼食及び従業員の生活用としての配布に使わせて頂きました。自治体からは復旧補助金の案内があり、土間や機械の修復に利用しました。

4. 支援・制度について

・国・県・市町村などからの支援制度(補助金・融資・罹災証明など)は利用できましたか？

林野庁や中小企業庁の補助金を利用。

・支援制度で「もっとこうだったら助かった」と思う点がありますか？

従業員に公的支援が届くには所要時間がかかるので、会社として見舞金を支給。趣旨は家屋損壊ではなく日常生活の不便に対するものとし、避難生活日数や扶養家族の人数により支給額を定めました。最高額は20万円にな

りました。行政からは工場復旧に必要な項目、金額の問合せがありましたが、時間が無く十分に内容を詰めることが出来ませんでした。追加支援や内容の修正が柔軟に対応できれば更に良い支援となったのでは。またコンクリート殻や廃棄木材を市が回収してくれないので困りました。

・木材業界団体や協同組合からの支援が役立った事例はありましたか？

全国から集まった義援金を分配して頂きました。

5. 今後に向けた備え

・今後、震災に備えて優先的に強化すべきだと思うことは何ですか？(例:建物耐震化、在庫管理、従業員訓練など)

自分では日常の3S活動や安全巡視で手を抜かないことだと戒めています。津波に対しては工場建屋の屋根に上がる経路を整備しました。

・組合や地域での共助(防災協定や共同備蓄など)について、どう思いますか？

生活物資の不足は地区により、また、時間の経過で種類が異なります。全国から届く救援物資を早く、無駄なく分配する仕組みが必要です。

6. 自由記述

・今回の震災を通じて、木材業ならではの課題や気づきがあれば自由にご記入ください。

元々、石川は災害が少ないので油断していましたが、どこで災害が発生してもおかしくないと痛感させられま

した。能登復興は道半ばであり人口流出も懸念されています。当社では国産材をトレーラー50台(毎日)消費します。今後も地域経済の核としての役割りを果たしていきたいと考えています。